

白井市総合教育会議会議録

○会議日程

平成28年3月23日（水）

白井市役所4階第1会議室

1. 開会
 2. 市長あいさつ
 3. 議題
 - (1) 白井市教育大綱（案）について
 - (2) 意見交換について
 - (3) その他
-

○出席委員

市 長	伊澤 史夫
教育委員長	石亀 裕子
委員委員	小林 正継
教育委員	高城 久美子
教育委員	川嶋 之絵
教 育 長	米山 一幸

○欠席委員

な し

○出席職員

教育部長	田代 成司
教育部参事	藤咲 克己
書 記	風間 信也
書 記	品川 太郎

午前10時03分 開 会

○開会宣言

○事務局 おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから平成27年度白井市総合教育会議第3回を開会させていただきます。

初めに、伊澤市長より、ごあいさつをお願いします。

○伊澤市長 おはようございます。本日は年度末の大変お忙しい中、第3回目の総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。

昨日、平成28年第1回の定例市議会が終了いたしました。そして、教育委員会関係の予算等、議案を含む全ての執行部提案が可決をいただいたところでございます。ご報告申し上げます。

また4月からは、新たな新年度がスタートします。第5次総合計画も、いよいよスタートするという事で、「ときめきとみどりあふれる快活都市」の1年目がスタートします。この中で、先駆けといたしまして、先日、皆さんにも参加いただいた白井駅前での街頭フェスティバル、3千数百人を超える方々の参加をいただき、大変盛会に開催されたところでございます。そのように、いろいろな施策を通じて、魅力あるまちづくりを市内外、全国に発していきたいと考えているところでございます。

本日の総合教育会議におきましては、今まで検討してまいりました教育大綱について、決定していきたいと考えております。決定をいただければ、パブリックコメントを募集していきたいと、このように考えているところでございます。

いずれにいたしましても、白井市、そして日本の将来を担う子どもたちの健全教育、そして生涯学習というのは大変重要なことであります。私も4年前から小学校6年生、中学校3年生の社会科特別授業を行っておりまして、先月、全小中学校の本年度分の授業が終了いたしました。授業を終了いたしますと、後ほど児童・生徒から、その感想をいただくわけですが、私の授業の目的の一つは、白井市の政治経済、いわゆる政治というのは市長と議員の関係、そして経済というのは白井市の財政関係をメインに歴史や白井市の産業、農業、商業の分布などを踏まえて行っている授業で、もう一つの大きな目的は、児童・生徒に白井市をよく知ってもらって、そして白井市を愛してもらって、できれば、この白井市で活躍してもらいたいという願いもこもっているところでございます。その願いが少しでも、5年～10年、長い時間はかかるとは思いますけれども、将来的にこの白井市を若い力で、さらに活気が出てくれば、次の世代に渡せるまちになるという思いを、その子どもたちからいただいた文集から、しているところでございます。

ということで、今日は大変重要な会議となりますので、ぜひ皆さんから忌憚のない意見、活発な審議を心からお願いいたしまして、私のあいさつとさせていただきます。よろしく申し上げます。

○事務局 では、早速、会議に入らせていただきます。次第に沿って進めさせていただきます。

議題に入りますので、進行につきましては市長でお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願

ます。

○議題（１）白井市教育大綱（案）について

○伊澤市長 それでは議題に入ります。

議題（１）「白井市教育大綱（案）について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは白井市教育大綱（案）について、ご説明いたします。冊子をご覧いただきたいと思ひます。

まず、２ページをご覧いただきたいと思ひます。

１番、教育大綱の位置付けと記載してごひます。前回、説明したとおりでごひます。法律改正によりまして、総合教育会議において、大綱を策定するものでごひます。

２番、大綱の実施期間でごひますが、第５次総合計画の前期基本計画に合わせ、策定の日から平成３３年３月３１日までとしておひます。

３番、施策の実施ですが、第５次総合計画の前期基本計画に掲げる学習・教育分野の重点戦略や分野別の基本戦略の達成に向け、事業を実施してまいります。

４番、計画の体系ですが、施策の実施をイメージ化したものでごひます。

３ページに入りまして、５番の白井市の教育方針を載せておひます。平成２７年度の教育方針を継続することとしておひます。前回の素案では、第５次総合計画の前期基本計画の重点目標を最初に載せておひましたが、教育方針のもと、教育委員会として取り組んでいく基本的な項目を先に掲載し、次に、その中で、前期基本計画において重点的に取り組む項目を載せることといたしました。また、教育大綱につきましては、教育に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものでごひますので、具体的な事業につきましては、資料１に掲載してごひます。

教育方針のもと、基本的な目標を４つ定めておひます。個々の具体的な事業につきましては、資料１の第５次総合計画前期実施計画事業（学習・教育分野抜粋）を合わせてごひください。

１番目の学校教育の充実につきましては、子どもの確かな学力と豊かな心と体を育むとともに、地域に根ざした教育を推進します。また、子どもが安全で安心に学べるよう教育環境を整備します。

具体的な事業につきましては、資料１に書いてごひます。教育資金利子補給事業、ＡＬＴ配置事業、教育相談事業、適応指導教室事業、青少年国際交流事業、教育課題調査研究事業、教育の情報化推進事業、特別支援教育事業、学校安全対策事業、学校給食共同調理場建替事業、小中学生の栄養指導事業、補助教員配置事業、地域人材活用事業があります。この中で、補助教員配置事業、地域人材活用事業については、前期基本計画の重点事業となっております。

２番目の生涯学習の充実については、様々な年代にわたる市民の多様なニーズに応え、生涯にわたる学習機会の充実を図るとともに、学習した成果を市民生活や市民活動などに生かせる仕組みづくりを進めます。また、学習活動している市民が活動しやすい環境づくりを目指します。

具体的な事業につきましては、立春式事業、青少年野外活動事業、子どもワンプク大会事業、家庭教育事業、図書館サービス推進事業、図書館資料整備事業、プラネタリウム館運営事業、放課後子ども教室事業、子どもしごとフェス事業、白井市民大学校事業があります。この中で、放課後子ども教室事業、子どもしごとフェス事業、白井市民大学校事業が、前期基本計画の重点事業となっております。

続きまして、3番目のスポーツの振興につきましては、より多くの市民に、安心・安全にスポーツに親しめる機会を提供するとともに、子どもから高齢者まで誰もが生涯を通してスポーツに親しみ、健康づくりや地域での交流が図れる環境づくりを目指します。

具体的な事業としましては、各種スポーツ大会開催事業、総合型地域スポーツクラブ支援事業があります。この中で、総合型地域スポーツクラブ支援事業が、前期基本計画の重点事業となっております。

続きまして、4番目ですが、文化芸術活動の支援につきましては、市民による文化活動を支援し、多様な文化・芸術に親しめる機会を提供します。また、郷土の歴史や文化遺産の調査・保存を推進するとともに、市民と協働しながら文化財の保護活動を行います。

具体的な事業としましては、市史編さん事業、文化財調査事業、文化財保護・周知事業、埋蔵文化財・文化財記録保護事業、市民学芸スタッフ古文書修補活動事業、郷土資料館展示・教育普及事業、文化を支える人材育成支援事業、市民文化祭開催事業、文化会館自主事業運営事業があります。

以上の4つが、基本的な目標となっております。

続きまして、大綱（案）の4ページですが、第5次総合計画の前期基本計画における学習・教育分野の重点戦略について抜粋しております。第5次総合計画の将来像である「ときめきとみどりあふれる快活都市」の実現に向けて、前期基本計画における学習・教育分野で重点的に取り組んでいく戦略を定めています。

戦略1の若い世代定住プロジェクトでは、取組目標を子ども一人一人とさらに向き合い、「子どもの教育なら白井」と言われるまちづくりを進めます。

具体的な事業につきましては、放課後子ども教室事業、補助教員配置事業、地域人材活用事業、子どもしごとフェス事業となっております。

戦略3の拠点創造プロジェクトでは、取組目標を各地域に大小様々な交流の場やサービス提供の場などをつくり、充実させることで、安心して快適な生活を送れる地域づくりを進めます。

具体的な事業につきましては、総合型地域スポーツクラブ支援事業、白井市民大学校事業となっております。

先ほども申し上げましたが、教育大綱につきましては、教育に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるもので、具体的な事業は記載しておりませんが、大綱を実現するための具体的な事業につきましては、それぞれ付随しているという認識を持っていただければと思

います。

次に、資料2をご覧くださいと思います。第5次総合計画前期実施計画事業のうち、学習・教育分野の抜粋の詳細なものをお配りしてございます。これにつきましては、前期実施計画事業の学習・教育分野の34事業全てが掲載されております。それぞれ事業の概要や、5カ年の年度別計画が掲載されておりますので、ご一読願います。

また、この実施計画事業につきましては、教育委員会の権限に属する事務の点検・評価の対象事業となっておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

最後に、今後のスケジュールですが、先ほど市長のあいさつにもありましたが、大綱(案)が決定しましたら、パブリックコメントを実施し、5月中を目途に策定し、公表していきたいと考えております。

以上で、ご説明を終わります。よろしく願います。

○伊澤市長 ただいま、事務局から説明がございました。委員の皆様から、ご質問あるいは意見等があれば、願います。

○米山教育長 では補足で。この教育大綱、今日、内容はこの会議の中で決定した後、パブリックコメントを行います。この大綱については、まず基本計画とリンクしなきゃいけないということで、基本計画が成立するのを待っていました。基本計画の内容と合致するという。それと、今までは教育委員会は教育委員会で目標や計画をつくっていたけれども、実際に予算編成をするのは市長の権限ですので、教育委員会があれやる、これやるといったところで、予算で編成されなければ、その事業は実施されないというのが、今度の法律の改正で、市長と教育委員会が一緒になって、教育委員会が求める事業と、予算編成権限を持っている総合計画の設立者である市長と全てをリンクさせた大綱を作成して、市全体として、また教育委員個々に持っている教育委員の考え方を含めた事業を合わせた上で推進していくということで、教育委員また市全体の考えと合わせた大綱になりますので、是非この大綱をベースに進めていきたいと思っています。

また、この内容については、点検・評価、毎年、外部の人を入れて、一緒に点検・評価をしております。その点検・評価の中で、修正は毎年加えられていますので、修正しながら各事業を推進していくということで、修正。また新しい事業をオンするもの、カットするものが出てきた段階については、この総合教育会議の中で市長に報告して、また会議の中で決定していくという形で、教育会議の中で点検・評価を行って、大綱の個々の事業については、変化が少しずつ出て、毎年、皆さんでやっていますので、新しい事業、またはカットされる事業等も今後、出てくるのではないかとということで、市全体の教育委員会の個々の意見を持ったそれぞれの事業が、推進されていくということで、ご理解をいただけたらと思います。よろしく願います。

放課後子ども教室の関係ですけれども、4月18日に川嶋委員がコーディネーターとなって、中木戸公園を無料で子どもたちに開放するというので、18日からオープンにしていこうということで、

放課後子ども教室で決定しております。地域の方等から、児童公園ではボール投げができない。ボールを思い切り蹴れない。また、西白井一丁目、二丁目、三丁目、四丁目からは、遊び場が少ない。通
りも危険なところがあるというような話を聞いておりましたので、中木戸公園をオープンにして、無
料で開放するということが決定しまして、スタートします。

また、その時の管理員、監視員をやっていただける方が、もとのスポーツ少年団の本部長がやって
いただけるということで、子どもたちにも、少しスポーツの指導もできればということで話を聞いて
おります。

まずやってみた上で、例えば南山公園で、またできないかということで、子どもたちが思い切り外
で大きな声を出して、走れて、楽しめる事業ということで、18日オープンしますので、川嶋コーデ
ィネーターのもとでスタートしますので、是非教育委員の皆さんも一緒に見に行ってくださいとい
います。

放課後子ども教室につきましては、教育委員会から、これをやりなさいということではなくて、地
域からのオーダーに対して、できる形で進めていきたいと思っておりますので、各地域、各学校、P
連を通じて、いろいろな情報の提供がありますので、進めていきたいと思っております。

また、重点事業の市民大学についても、学部の設置については、どんどん学部は広げていきたい
と思っております。一部、新しく農業をやってみたい。農業学部をつくってくれないかというよう
な話もありますので、個々の方が農業に親しめるということであれば、市民大学で農業学部をつくるのも、
何ら問題はないので、学部学科を広げるといことは推進していきたいと思っております。

それから、重点戦略になっている補助教員配置につきましては、市の規模としては大変小さな規模
ですけれども、これだけの人数を補助教員として配置できている。また介助員を配置できているのは、
印旛郡市の市町の中でも、成田市と白井市だけと思っております。教員が授業しやすいという意味で
はなくて、子どもの利益ということで、子どもの授業に対しての補助教員の力が発揮できているとい
うこと。それと、教員免許を持った図書館指導員、免許を持っていますので、授業がTTで一緒にで
きますので、国語の授業を含めて、全体の中で進められる。補助教員、それから図書館の先生が一
緒に授業できているということで、その結果が、すぐ出るわけではないですけれども、全国学テでも、
国語の力はアップしております。さらに進めていくことで、すぐ教育の結果が出るわけではないです
けれども、いろんな形で進めていけたらいいなと思っております。

基本計画の重点戦略については、今までやっていたものをさらに量を増やすなり、質を高めるなり
して、重点戦略の推進に向けて、各事業に取り組んでいるということで、全体を進めていきたいと思
っています。

また、ない事業につきましても、教育委員それぞれの中から、考えている事業提案等がありました
ら、提案をいただいて、この実施事業の中に加えていくということも可能ですので、是非いろいろ
意見をもらえたらと思います。

それから、子どもフェス事業と、新しい名前の事業が入っていますけれども、これは、以前のキャリア教育の授業で職に就くことの大切さ。勤労観を考えること。それと、自分が社会に出て、一本立ちして生活していくのには、どうしたらいいかということ子どもたちになるべく早い時期から考えていてもらいたいと思っております。例えば、中学校2年生の子どもたちは、基本計画でいうと、5年過ぎますと、5年後にはもう社会に出て働いている子もいます。そうすると、市役所では5年間、このような計画で進めるけれども、子どもたちはこの5年間、それぞれ自分で何をやらなきゃいけないのか。先生やお母さん、お父さんと何を相談して、何を勉強しなきゃいけないのかということを含め、5年間の子どもの計画をつくれるし、また、それに対して、各先生方が進路に向けてのアドバイスができると思っております。子どもたちが個々に持っている分野別の力が違いますので、子どもたちに合った力が社会の中で発揮できる職業は何なのか。また、学習科目は何なのかということで、子どもたちに少しでも広いメニューの中から、自分と保護者と話し合った形で、社会の中で自立した、貢献できる人材を育成していくということで、このキャリア教育についても上乘せをした形で、重点事業を含めて進めていきたいと思っております。

また、各委員の中から、基本計画の重点事業に引き上げたほうがいいのではないか。また、重点事業としてプラスにしたほうがいいのではないかという意見があれば、この会議の中で決定していきたいと思っております。市長と一緒にいますので、市全体の計画とマッチングした新規の事業等も進めていきたいと思っております。

よろしく申し上げます。以上です。

○伊澤市長 ただいま、教育長から大綱を支える総合計画事業、前期基本計画の事業内容を具体的に説明いただきました。これらも含めて、委員さんから何かご意見、ご質問があれば、お願いします。

○小林教育委員 基本計画と合致させるということで、ここで戦略1の若い世代定住プロジェクトと戦略3の拠点創造プロジェクトの観点から考えた場合に、今まで教育委員会でやってきた事業の中で、さらにこれに合致するというので、具体的に力を入れる。今、教育長も説明してくれましたけれども、基本計画を立てる段階で、地域でいろいろ話し合ってきました。それで、この戦略が出てきていると思います。我々、教育委員会が考えてきたそれと、そういうところが出てきたそういうものと一致というか、あるいはそういうものを取り入れたようなところはあるのでしょうか。それをちょっと聞きたい。

○伊澤市長 私から事務的に。この総合計画をつくっていく段階で、まず、小林職務代理がおっしゃったように、タウンミーティングをして、地域に行って、いろいろな方々の意見をいただいております。それから、アンケートも行っている。まず、いただいた意見やいろいろなアンケート等を分析する訳です。その中に各職員が、教育委員会からも出ていますし、若手の職員から管理職、段階別、職別に出ていって、横断的なつくり方をしております。教育委員会から総合計画に携わった職員は当然、教育委員会会議なり教育委員会の事務局としての施策についても十分、そこに反映させていくと

ということで、市民の声、そして教育委員会、事務的な行政、仕事の組み立て等を含めまして、総合的に網羅できるような施策なり総合計画をつくっていったら、その中で、計画は総花的ではなくて、さらに重点的なもの、優先順位をつけて、その中で確実にできるもの、重点度の高いものからやっていくと整理してありますので、教育委員会の大きな方向については網羅されている。そのようにつくってきたという計画でございます。

何か、事務局から補足があれば、お願いします。

○田代教育部長 例えの話で申し訳ないですけども、戦略1の若い世代定住プロジェクトの中にある地域人材活用事業ということで、タウンミーティングの中で、地域のお年寄りの方で、英語が堪能な方がいらっしゃるんで、そういう方を活用して、子どもたちの英語教育が盛んになっていくので、そういう活用もしながら、子どもたちを英語に興味を持たせるといふご意見をいただいております。そういうこともありましたので、あえて地域人材活用事業として、今度は名前を変えて、地域の方を事業の中で呼び出して、その中で英語とか、様々な事業の中で、子どもたちに教えていただく手助けをしてもらうということで、あえて事業名を変えて、ここに持ってきたということでございます。

○伊澤市長 具体例も説明をさせていただきました。その他、何かご質問はございますか。

○小林教育委員 例え、4の文化・芸術活動の支援で、私も自分が郷土史の会に入っているから、例え市史編さん事業とは、県に残り少ないまだやっていない自治体ということと言われて、自分の知っている範囲では何回も出てくるのです。重点事業にはならないのでしょうかとちょっと思っています。

○米山教育長 市史編さんについては、教育委員も学識も全員一致で、早く進めろということで意思統一がとれております。また、文化財関係の会議、郷土資料館での会議でも、市史編さんは待ったなしだ。この前の会議では、例え、白井市の中世、それ以前の証明するような本が、神田のどこかの本屋にあったという話も出ていまして、その本を買い取っていく位の予算を持ってということが、会議の中でも出ておりました。

これは、まず全体の事業計画を事務局でつくりますので、総合教育会議の中で、市長を含めて、どのような位置付けで、どのような年次計画を持って進めていくのかということを考えていただく。この3つは必ず必要で、常識的な話です。この文化財を読める人。例え、その人を雇用するのか。例え、大学に委託して大学にお願いするということで、人。物については、資料、市史になるものを集める。場合によっては、買い取りもしなければいけないということで、その費用ということで、人、物、お金が必要なんで、ちょっと時間をいただいて、どの位の期間で、どの位の金額で、どのような人をお願いできたらということで、また、教育委員会会議で審議した後、この総合教育会議の中で新しく位置付けをしていく。決めていきたいと思っております。

○伊澤市長 その他、ございますか。

○川嶋教育委員 先ほど、教育長からもお話がありましたけれども、子どもしごとフェス事業が初め

て出てきたので、事務局にどのような事業かをお伺いしたい。それは、事業の中で展開されることなのか。地域のイベントとして、そのようなことを取り込むのか。どのような事業であるのかをお伺いしたいです。

○田代教育部長 お手元の資料2の9ページの下に、子どもしごとフェス事業が載っております。来年度からの事業で、幾つかの市町村でイベント的に、いろいろな企業が集まって、そこに子どもたちが行って、職業体験をするというイベント等もございます。そのようなものを調査研究しながら、市として、子どもたちが若い時から取り入れる。職場体験となると、小学校では、6年生が半日～1日位です。中学生は2日か3日だけです。学校においては、もう少し早くから授業の中では取り組んでいますけれども、なかなか学校も体験に行かせるということもできませんので、いろいろな行事の関係です。そのような部分で、周りの様子を見ながら、イベント的なものも含めて、この事業を立ち上げていこうかということで、来年度以降、調査研究を進めていくものになります。

○川嶋教育委員 この事業を聞いた時に、今は確かにそのようなものをいろいろと、東京ではキッザニアとか、幕張にもそのようなテーマパークがありますけれども、子どもがその仕事に関心を持つことに低年齢化している傾向がありますので、すごくいいことだなと思います。今、お伺いした時に、幅広い年齢の子どもに、要はもしかしたら、幼稚園のお子さんでも参加できるようなイベントだったらいいなと思っていたので、そのようなことでしたら、よろしくをお願いします。

○米山教育長 今の子どものキャリア教育、仕事に対する気持ち。工業団地協議会で、いろいろと先進的な分野のものをつくっているし、その辺は市長がよく知っているのです。教育委員会だけではなくて、工業団地協議会で、このような大きなものの部品をつくっているということを紹介してもらえれば、展示を含めて、子どもたちが見に行くようなバスを出して、物づくりの工業団地だよということも紹介していきたいと思っていますけれども、その辺は市長のほうではタイアップできますか。

○伊澤市長 冒頭に、報告させていただきましたがけれども、小中学校の社会科特別授業の中で、私は今年度の教材には、今までは少し触れていたけれども、今年はさらに工業団地について、かなり時間を割いて説明しています。というのは、今言ったように物づくり、世界に誇れる技術がある工業団地がいっぱいあるということで。例えば、子どもたちに一番受けるのは、お台場のガンダムの塗装をしたとか、ディズニーシーのセンター・オブ・ジ・アースという催しがありますけれども、その一部をつくったとか、あとは江戸っ子1号、1万メートル潜って撮影できるレンズとガラスをつくった会社とか。当然、フクダ電子は心電図とかですね。日弘ビックスという携帯の塗装を一手に引き受けているところとか、幾つもあります。

ちょうど、『下町ロケット』という番組で、物づくりが、かなり子どもたちにも浸透して、今年がいろいろな気持ちを込めて、社会科の工業の勉強も含めて、それから、市内にこのようないい企業があるということを紹介して、ぜひ子どもたちにも見てもらいたい。工業団地を結構知らないですよ。大体、手を挙げて、知っている人はと聞くけども、第2小学校区では大体知っています。第2小学校

区を離れると、ほとんど分からないということです。

だから、今、教育長から提案があって、例えば、この事業に具体的に工業団地のある部分へ行ってみようとか、もしくは呼んで話を聞こうということがあれば、ぜひ実現したいと。

実は、私の中学校の授業の時に、工業団地のある社長さんが傍聴したいと来て、子どもたちに対して、もっと自分たちのいいところをアピールして行って、工業団地を児童・生徒に知らせたいという話もいただいておりますので、具体化されれば、一緒になって、やっていければよいと思っていますので、さらに検討いただければと思います。

○米山教育長 事業化に向けて、体育館に工業団地協議会に来てもらってもいいし、いろいろな形の物づくりをしている企業の紹介と、こういう新しい分野の仕事があると子どもたちにも教えたいので、マッチングできるように、事業化できるようにお願いします。

○小林教育委員 今と関連するけれども、第二小学校、第一小学校のこちらの例の緑の地域、緑を守る地域ゆえに、例えば子どもの数はどんどん減っていく。毎年、確実に減っていますね。ニュータウン地域はまだ少し増えていて、そちらは確実に減っていくだけという状況もありますので。緑のところが白井市で好きな訳だから、そのようなところにどんどん行って、交流できるような。何かそのような、教育の分野でも、今言った工業団地の活用とか、そのように人が生き生きできるようなことを具体的に考えて行って欲しいと。

私が、第二小学校区に住んでいるからですけど。ある意味で、格差というか、片方がぐっと進んで、第二小学校もテストなどでも頑張っているけれども、人数が減ってくると、親は心配して、複式学級になっても大変ということで、桜台とか七次台のほうに行ってしまうという家庭も増えてきています。それは時代の流れで、仕方のないところもあるけれども、全体の教育ということもありますし、今の工業団地の活用とか、その他のことも含めて、教育面でも、もっと交流しながら進展というか、そういうことができるのではないかと思いますけれども、それも是非。

○伊澤市長 この戦略1と3になって、実は2が緑活用プロジェクトというものがあります。それは、主に行政、市長部局が主体ということで載せていますけれども。その中には、農業は緑の大きな一つですから、農業の推進という施策を重点的に行っているし、これからもさらに力を入れていきたいと。

いわゆる16号から北側はそのような地域ということで、私も授業の中でも言っていて、白井市の農業もよく知ってもらいたいという話もしています。

これは、私から逆に提案ですけど、例えば、今おっしゃった白井第二小学校ですか、今は104人ということで、大きな学校は800人を超えている学校があって、かなり学校規模の問題があります。児童・生徒を早急に増やすということは、かなり難しい。これは現実的に難しいです。私も心配していることは、今、小林委員もおっしゃったように、本来、第二小学校区に行く子どもが、いろいろな理由で桜台、あるいは七次台に行っている子も確かにいますね。ですから逆に、第二小学校区でしかできない教育と申しますか、そのような特色のある学校教育、もしくは学校教育に合わせて生

涯教育、学習でもいいですけども、何かそのような。第二小学校が、100人の学校だからできずということが、特色があったら、また魅力が出るのではないのでしょうか。

そのようなことは、教育委員会としては、どのように考えているのか。

○**小林教育委員** 一つだけ言わせてもらおうと、向こうに住んでいる子どもたちが全体的に保守的だから、自分達には案がないです。だから、もう減っていったら減っていったままで、それでもあまり危機感を感じていないというか、仕方がないという。だから全体で考えていかないと。むしろ、ニュータウン地域に住んでいる方々のアイデアとか、そういうものをそこに加えていかないと、その人達にそこで特徴を考えろといっても、なかなか実際に出てこないと感じています。

○**伊澤市長** あと、教育委員会としてはいかがですか。

○**小林教育委員** 第二小の特徴として、今の第二小としては頑張っていると思います。太鼓をやったり、いろいろな地域の人に来てもらったり、放課後子どもプランもやったり、それなりにベストに頑張っているから、少人数でもある程度、学力を保っていると思いますけれども、限界を感じます。それが、結果的には子どもの減少です。本当は30人近く、地区にいるはずだが、運動会の時に20人位しか来ない。さらに両方に行ってしまうと、10数人しか入学しないと。何かあっても、結果がそのように出てしまうというか。これはどうしようもないのかなと思う面もありますけれども。その地域だけが考えているのではなく、第二小学校のあり方も、全体を含む中で考えていくということが、必要ではないかと。自分でもアイデアがよく分からないですけど。

○**米山教育長** 第二小学校は、今、100数人の小学校のいいところは何かと聞かれたら、他の学校は学年主任がいます。4学級、5学級のうち、学年主任がいて、その学年をどうまとめて、それを各クラスのつながりとか仲間意識というものがありますけれども、第二小学校の特徴では、1年から6年までを縦のつながりで教育しようということです。特に校長が、お兄さん、お姉さん、新1年生の面倒を見ようと。お兄さん、お姉さんにこういうことをしてもらったら、ありがとうと言おうよということで、横のつながりではなくて、縦のつながりを重要化させて、日常の学校生活を送れているということです。

それと、毎授業が全部、少人数指導位の人数が少ない授業で、子ども1人当たりのクラス数が少ない。それと、全体を見ると、横だけ見る訳ではなくて、先輩、後輩とかお兄さん、お姉さんとの人間の関わり方というものは、他の学校から見ると、随分第二小学校はできているという印象があります。

だから、反対に第二小学校でお兄さん、お姉さん、また少人数を希望する方が、事情があつて行くのであれば、第二小学校は行く価値は十分あると。ただ、ちょっと場所的に遠いので、通学がどうかと思いますけれども、縦のつながりは小学校として、上手につくっていると褒めてやりたいと。

○**伊澤市長** 市長部局も、各小学校、中学校は地域の拠点、コミュニティの拠点、そして防災の拠点と位置付けているので、教育委員会も今、教育長からお話がありました。私も、大きい学校は大きい学校の教育。小規模校は小規模校の教育という特色を出す教育と思いますので、今言ったように縦の

教育、実際の兄弟ではないとしても、お兄ちゃん、お姉ちゃん、小さい子の面倒を見ようとか、そういうことはあると思いますので、そういうことも含めて、市長部局と一緒に、学区のコミュニティなり、拠点として学校が活用できるような形に持っていければと思っていますので。児童を増やすということは結構難しいですね。

逆に、教育長が言ったように、この学校へ来れば、こういう教育ができます。是非、こっちへ来て、第二小学校で勉強してくれませんか。千葉県ではないですが、ここはこういう教育をやりますので、是非移住してくださいということで、移住した事例も新聞で読んだことがありますので、何かいいアピールができれば。第二小学校を含めて、他の学校もそうですけど。この学校は、こういう特色があるということでアピールができると、すごく市長部局と教育委員会と一緒に、学校を中心とした地域づくりができていくというような気がしますね。

お互いに検討していければと思っていますので、よろしくお願いします。

○石亀教育委員長 縦割りというものは、古くて新しいと思いました。私の家は、清水口小学校が、白井市の中でも一番人数が多い時代に子どもが育った時ですけれども、縦割りというものはお掃除とか、そのような形で、縦割りで1年生から6年生までが、同じ場所をお兄さん、お姉さんと一緒にお掃除していこうというようなことをやっていた時期もありましたけれども、効率の悪さということである時から、ふざけている小さい学年の面倒を上学年が見ることも、なかなか大変であり、やるべきお掃除ができないというようなこともあって、いつの間にか、その縦割りがなくなってきてしまったということがあります。今、他の学校はどのように、縦割りをやっているのかどうか、現状を知りたいと思いました。

よくテレビ番組ですけれども、島の学校で、子どもが1人しかいないとか2人しかいないとか、そのようなところで、タレントさんがお友達になりましょうとあって、一緒に授業を受けたりするという番組もあります。そのテレビを見た人達の中から、その島に行って勉強したいということで、去年は1人ですけれども、どんどん増えていくというようなことが、テレビで追跡されて、多分、見たことがある方もいると思いますけれども、山村留学ではないけれども、白井第二小学校のそのようないいところを、テレビ番組ではないにしても、アピールできると、もしかしたら、このようなところで勉強したいという子どもは出てくるのかなと思います。

白井第二小学校の縦割りというものは、私も改めてどのようにしているのか、ちょっと見学してみたいと思います。そのような、昔は当たり前だと思っていたことが、今はそうではないということが、また新しいものであれば、そのようなことをアピールしていけたら、いいのかなと思いました。

○伊澤市長 事務局で、今、委員長の言っている縦割りといいますけど、低学年から高学年まで何か一緒にやるという事例があれば、紹介して欲しいです。

○田代教育部長 縦割りは、かなりの小学校でやられていますけれども、大きな学校になると、行事的なものが多いです。例えば、1年生と6年生を組ませて、昼休みに一緒に遊ぶとか、そのようなこ

とはあります。あとは、縦割り清掃にも、取り組んでいる学校はあります。

そういう意味では、第二小学校はそれが結構強くあります。あと第二小学校の運動会を見に行くと、縦割りだけではなくて、地域割りがございます。もう完全な地域としての競技があって、地域色が何々地区、何々地区といった地域で子ども達を育てるといった感覚はあると伺っています。

小学校は、特に縦割りを行事的に入れるということは、非常に多くございます。

○高城教育委員 第二小学校は本当にいい地域で、教室のスペースも結構空いているので、例えば、給食を3学年位にまとめて、給食ルームで食べましょうとか。100人ちょっとだったら、自校式はそれもないと思いますけれども、私一人でもつくれるかなと。隣に老人ホームの施設もありますので、そのような福祉に力を入れたり、通にくいということでしたら、是非スクールバスです。第二小学校はスクールバスがあれば、とても便利ではないでしょうか。

○伊澤市長 ありがとうございます。他の地域、まだ行っていないですけれども、例えば、第二小学校区、一番遠い地区は平塚地区ですけど。平塚分校を統合した時に、平塚をメインにナッシー号、循環バスを通学、帰りの時間帯に合わせて、臨時運行、臨時便を出しています。そこに、今井地区とか便乗しているところもありますので。ですから、学区内では、第二小学校は結構、通学距離が長いですから、ある程度、安全性は考えています。

先ほどの話では、課題は、例えば、違う地区の人が第二小学校に行ってみたいといった場合、ではどうやっていくのか。実際、そこですね。今、区域外就学になると、保護者の責任でやることになるのかな。

○米山教育長 そうです。

○伊澤市長 ですから、その部分がうまくいくと、例えば、第二小学校、こんな特色のあることをやっていますので、行ってみたいなといけると思います。通学が、どうしても最後のネックになってくるのかな。先ほど言った小さい島みたいに、そこへ住んでしまうのであればいいですけど。だから、第二小学校区に来てくれることが一番いいでしょうけど。近くにです。そこは、すぐ結論は出ないにしても、私も子ども達の授業の中では、そういう話もしています。とにかく、あの地域はどんどん子ども数の数が減って行って、多分、小林委員の頃は、分校と合わせて400人を超していたのではないですか。

○小林教育委員 そうですね。

○伊澤市長 ですよ。分校だけで、100人以上いましたから。だから、分校で120人とかいた年ですよ。ですから、そのような大きな学校でした。だから、分校だけで、今の本校よりも大きかったという時代を通して、今は400人位から100人になってしまっ。本当に少子化が進んでいます。ただ、全国ではもっと小さい学校もあります。ですから、100人いれば、このようなことができるというものを、私共も考えていきますけれども、一緒に地域の核となるような学校にしていければいいと思っています。これについては、いろいろとまた議論していければと思っています。

○川嶋教育委員 今のお話ですけれども、七次台小学校区では非常に多く、七次台小学校には確かに第二小学校区のお子さんが来たりしています。逆に、第二小学校区の太鼓クラブですか、太鼓が有名で、市内ではなかなかないですね。なので、うちの学校のお子さんで、学年が決まっているみたいで、今しか行けないからといって、第二小学校区の太鼓教室に行っている子がいます。だから、魅力のあるところには、こちらからもちゃんと行っています。残念なことは、それを私は知らなくて。そのような発表の場がないのではないかと思います。

去年、市P連の研究事業で、桜台小学校に場所を借りて、プロの太鼓集団を呼びましたよね。あの時に、太鼓は素晴らしいと感動したけれども、市P連が主催しているのであれば、何で第二小学校の会長は、うちの子たちを出してと言わなかったのか。そこでコラボさせたら、あそこにはいろいろな学区のお母さん達が集まっていた。見せ場じゃないですか。何故、つくってあげなかったのか。もちろん、太鼓プロの方には失礼に当たるかもしれないですけれども、そこで白井市のPRをすることも重要だったと思いましたので、非常に残念です。また、そこに第二小学校区の保護者が非常に少なかったような気がします。何だろう、この中途半端な。ごめんなさい、感じたので。

そのようなところで、PRしていかないと、駄目じゃないですか。だから、そのようなことを言い出さなきゃいけない。気づいた時には言い出さないと、なかなかできないことだと思いますので。

○伊澤市長 太鼓の話は、一つの例だと思いますよね。多分、いろいろな場面を通して、第二小学校も含めて、いろいろな学校なり、いろいろな地域のアピールをするということは大事だと思います。今の指摘ですが、今度、何かやる時には、それがもっと広まるような、もしくはいろいろな人達が参加できるようなイベントに仕上げていくということも、大事だと思いますので、是非、今のご指摘を真摯に受け止めていただければと思います。

○川嶋教育委員 発表の場は、子どもにとってすごく大事であり、いろいろな人に見てもらえることは、子どもにはすごく励みだと思いますので、特に第二小学校に関しては、そのような機会です。

○伊澤市長 いい指摘だったと思います。

○川嶋教育委員 あの事業は良かったですね。市P連の研究事業としては、とてもよかった。第二小学校でもやっているのにとすることは、一つだけ心残りでした。

○石亀教育委員長 それに関して、傍聴の中には文化団体協議会、音楽協会に関係のある委員もいらっしゃるのかと思いますので、多分すごく分かると思って聞いてくださっている方もいらっしゃると思います。来る方も太鼓、私はちょっと行けなかったですけれども、そのような発表の場というものは、そういう方たちにとっても必要な、プロの団体ですよ。

○川嶋教育委員 プロでした。

○石亀教育委員長 そこに、その地域で発表するには、ただ自分達で売り込むだけではなく、地域とコラボするという発想を持って、コーディネーターしているお世話役の方もいることはいると思いますので。それを知っていれば、できたと思いますけれども、P連の中で、第二小学校だけ抜き出と

というような発想がなかったと思います。

前に、ウィーン少年合唱団が来た時に、白井市に少年少女合唱団ができたように、何か大きなものが来た時に、その地域とコラボすることで、よりいいものが、後々に。少年少女合唱団も残っています。そういった形はおっしゃるとおりで、地域の方にそういったことに手を貸していただくというか、そういうことがあるなら、地域の音楽教育といったところです。つながりがなければ、相談もできないですけど。こういうことをやるけれども、よりいいステージでできないのかという発想。自分達のイベントでやってただけで、精一杯だと思いますけれども、そういったところのスムーズな横のつながりが、白井市の中でもあるといいのかな。本当にもったいなかったですよ。

○川嶋教育委員 もったいないから、そういうことをちゃんとコーディネートする人がいて欲しかったと思いますよね。そこは、市P連の会長に任せるとか、その組織の中で任せるのではなくて、そこにもきちんと事務局、多分、生涯学習課だと思いますけれども、事務局も絡んで、もう少し広げてもよかったのではないかと思います。

○伊澤市長 まさしくご指摘のとおりだと思いますので、イベントなり何なりをもっと多角的に考えるということですかね。それは、是非市長部局も含めて、これから私も帰って指示を出したいと思いますので、教育委員会も合わせて、何か活性化といいますか、少しでも良い方に行くようお願いします。やるのであれば、良くやった方がいいですから。ありがとうございました。本当に良いご指摘をいただきました。

その他、何かございますでしょうか。

それでは、いろいろと議論、意見、質問も出尽くしたようでございますので、議題（１）の白井市教育大綱（案）については、この原案どおり決定することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○伊澤市長 それでは、異議なしということでございますので、この大綱（案）のとおり決定させていただきます。

それでは、先ほど、事務局から説明しました、今後のスケジュールのとおり、大綱（案）につきましては、パブリックコメントを実施してまいりたいと考えているところでございます。

○議題（２）意見交換について

○伊澤市長 その他になれば、せつかくの機会ですから、いろいろな意見交換とか情報交換ができればと思いますので、是非いろいろな角度から、普段思っていることや、今後こうしてもらいたいとか、こういうことはどうだろうとか、そういうものがあれば、是非話しをいただければと思っております。

○高城教育委員 先日のホワイトフェスティバルですけれども、3,000人以上のお客様が見えたということで、大変盛り上がったと思います。一部、商店街の方が反対したとかで、終わった後、これ

から反省とか、良かった点とか出てくるのかもしれないですけども、商店の方がちょっと迷惑だったとか。トイレはなかったの、マルエツか駅の中を使用したのでしょうか。もし、来年もこのイベントを行うのであれば、トイレとか。場所は、駅前ということが売りで、他市からも来られたのでしょうか。鎌ヶ谷市、印西市など。

○伊澤市長 そうですね。電車で来られた人もかなりいたということです。ただ、全員に何処から来たのかと聞いていないので、事務局がぱっと見て、人数とか出しましたけれども、駐車場があまりなかったことから、市内の人でも電車を使用した人はいると思います。

トイレですよ。そうすると、スーパーとか駅を借りた訳ですかね。

○高城教育委員 多分、そうです。私はマルエツに何回も行きました。あと、一番のメインは、今年は雪がほとんど降らなかったの、子ども達が、寒さの中、とても喜んで雪で遊んでいたという印象があり、良かったですね。

○伊澤市長 来年度も、ホワイトフェスティバルを予定していますので、今、反省点とかいろいろと総括すると思いますので、その中で今のトイレの話も出ると思います。できれば、商店街も含めて、地域全体で一緒になって盛り上げていくということが、一番良いです。例えば、トイレについては、トイレをどんどん使ってくださいというような形にもっていければ、お互いに良いと思いますね。

私は、その報告をまだ受けていないので、後日、確認して、次のフェスティバルに生かしていければ良いと思っています。ありがとうございます。

○高城教育委員 名前もすごく良いですね。シロイ、ホワイトデーと合わせて、シロイデーみたいな、びっくりしました。

○伊澤市長 正式に、条例決定はしていませんけれども、例えば6月5日が老後の日とか、白井市でつくった訳ですけど。3月14日が、ホワイトデーとか。何かいろいろなものを組み合わせ、それを白井市の独自のイベントにしてしまうということも、一つのありだと思います。去年やったマルシェも、かなり評判が良くて、若手の民間の方々、若手の方々も、またやっていきたいということも言っていますので、行政と一緒に、市民と一体になってできればと思っていますので、そこにこのホワイトフェスティバルが入って、山形から40人位来ましたですかね。

○米山教育長 来ていました。

○伊澤市長 犬川地区というところがもとですけども、川西町の犬川です。昔の合併村の犬川村だったらしいです。そこから40人位です。あと子どもを入れると、50人位になったのですかね。すごい人数で来ましたよ。地域であれを盛り上げてくれたということです。是非、犬川、川西町との付き合いも、これからはやっていきたいということで、お互いに交流できるのであれば、やっていきましょうということで、教育長も私もそうだけれども、市の主だった方々と集まって、歓迎会といえますか、意見交換会を前日に行ったけれども、すごく良かったです。

○高城教育委員 それで、宿泊施設はないですよ、白井市内にはない。

○**米山教育長** ないです。向こうは町営の何か宿泊施設です。ただ、学校自体も51人だけれども、最先端の学校という印象を受けました。教頭先生が、随行で来ていましたけれども、教頭先生は、「私は、大学へ来ている時、柏市に住んでいたから、ここはよく知っています。」と話していました。

○**伊澤市長** 言っていましたね。

○**米山教育長** 柏市に下宿して、千葉大学の教育学部へ行っていて、だから、この辺は何回も通ったことはありますと。ただ、学校自体は、子ども達も落ち着いているし、51人の学校にしては、大分、先進的なカリキュラムで授業をやっているという印象を受けました。反対に、51人の倍はいる第二小学校、もっと活性化できるのではないかという印象は持っています。

また、コーディネートした川西町出身の方が、鷹番に事務所を持っていると聞いたので、鷹番というと、学芸大学駅になると思いますけど、その人に、今度、学芸大の駅前の雰囲気やってみないかという話をしたら、学芸大の駅前、目黒の地区にとっても、どちらかというと、学芸大学の学生もいるし、住んでいらっしゃる方も、それなりの人も住んでいるということで、どこか真似してやることも一つですねと話しました。また、いろいろなフェスティバルをやる時は、このような形でやってみようということが出てくるのかなと楽しみにになりました。

○**伊澤市長** 基本は、いろいろな企業とか、いろいろな方々の協賛を得まして、全て市が経費も人も含めてやるのではなくて、いろいろな方々とやって、ウインウインの関係ですかね。そうしないと、長続きしないので。ですから、先ほど、少し出たように、ここが失敗したとか、ここはこうすれば良かったということがあれば、そこをどんどん改善して行って、持続があるように。いろいろな方々を巻き込んで、一緒にやっていくという方向でいかないと、これからイベントというものは、なかなか厳しいです。一発で終わればいいですけども、続けていくには、そのようないろいろな工夫が必要だと思いますので、そのような工夫をしながら、できれば良いと思っています。

○**米山教育長** あと、イベントといえば、第二小学校と白井高校の福祉の指定を受けてやることについて、皆さんに説明してください。細かい内容は分からないので。小学校から高校まで、福祉に関する指定校です。

○**田代教育部長** 2年計画で、去年と今年、第二小学校と白井中学校と白井高校が千葉県の指定を受けて、福祉教育をやっております。具体的には、第二小学校ですと、隣の福祉老人ホームの訪問とか、白井中学校については、今、福祉教育の中で、様々な方の体験とかお呼びしてとか、そのような形で進めています。高校については、まだ動きは入ってきていないですけども、それをまとめて、発表いたしますので、それができましたら、またご報告には参りたいと思います。

あとは、福祉というか、平和も兼ねて、再来年、白井中学校は平和教育も兼ねてやっていますので、今の一年生ですけども、広島に修学旅行に行きます。

○**米山教育長** 第二小学校ですか。

○**田代教育部長** いえ、白井中学校です。広島まで足を伸ばし、修学旅行で平和教育も兼ねながら、

行くという格好です。

○伊澤市長 良いですね。

○米山教育長 原爆ドームですか。今年、原爆展の品物を借りてきて、学校で展示して、戦争体験者の話を聞きながらということで、スタートとして、それじゃ、修学旅行は原爆ドームにしようという話が決まりました。そのような平和教育を生んで、またワンステップ上げていくと。私は、何を楽しみにしているのかというと、子ども達の原爆ドーム、平和公園へ行った報告会が楽しみです。だから海外派遣だって、行く時は手を振って、頑張っているってこいと思いますけれども、何が楽しみかというと、帰ってきた後、子どもたちの報告会です。何を勉強してきたのか。何をやったのか。行く前は不安だったけれども、もう帰ってきたら、さも何年も外国へ行ってたようなことを言っています。先週、全然知らない人に電車の中で声をかけられて、うちの子、七中だけど、海外へ行って、そのままJALの日本語教育のオーストラリア何とかへ行って、海外へ行ってしまったのですけれども、あれをやってくれて、ありがとうございました。と言われた時は、嬉しかったです。だから、JTBへ入りたいから、オーストラリアへ1回行ってくるとか、今の子どもは、もうJALへ行くから、行きたいと言います。メニューを一杯出さないといけないという反省はありましたので。そういう形で、小さい頃から広めていきたいという意味では、いろいろな形でと思っています。

○伊澤市長 広島原爆ドーム見学ということは、すごく良いですね。子どもたちも、平和について、今度は直に見て、自分で感じて、考えられる訳ですからね。成果が楽しみです。

○米山教育長 そうです。だから教育委員会で何かをやれとか、そのような時代ではない。学校で考えて、子ども達が考えて、修学旅行を決めていくという良いパターンです。ただ、報告会はやるように校長先生には言いましたけど。

○伊澤市長 そっちの方が大事ですよ。

○米山教育長 お好み焼きの話が出てしまったら、残念だと思いますけど。

○石亀教育委員長 直接、教育関係ではないけれども、いいですか。給食センターの跡地のことが気になっていて、場所もすごくいいけれども、何か、その跡地を利用するということは、考えていらっしゃいますか。

○伊澤市長 昨日、実は、給食センター用地の取得契約が通ったばかりです。これから、いよいよ本格的なスタートになり、スケジュールをきっちり組めますので。今までも、スケジュールはありましたけれども、そのとおりに進めていくことが確認できましたので、早急に跡地については、いろいろな検討を始めたいと考えています。

○石亀教育委員長 できれば、今、全国的にも、国会でも話題になっていますけれども、保育園問題は欠かせないのかなと思います。駅も近いですし、結構広い土地があるのであれば、是非、そこで待機児童をなくす。今、現在、待機児童はどれ位いるのか、具体的な数字は、まだ持っていませんが、そのような施設ができると、助かる若い方達がたくさんいるのではないかと思います。自分達の世代

も、お孫さんがというような世代にだんだんと近付いているので、自分が仕事を辞めて、孫の世話をしないと、娘や息子達が、仕事がうまく回らないという状況になっています。あそこの跡地に、そのような施設がきちんと整備されると、白井市としても、子育てしやすいまちという意味では、プラスになるのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

○伊澤市長 ありがとうございます。待機児童、ゼロを目指さなければいけないので。実は、白井市も待機児童はいまして、毎月数字が動いているので、はっきりとした数字は持っていないけれども、40人前後はいます。4月からはゼロを目指して、施策に取り組んでいます。今、待機児童がいる、大きな問題の一つが、キャパは受け入れできますけれども、保育士がいないということが、一番大きなネックです。この4月から保育士を、民間の派遣会社も含めて動員しています。キャパ的には。もう一つ、事業所保育もありまして、これはリハモードという酒井医療でやっているところですけども、その事業所保育が開設する予定です。4月から開始ということで、そこと市内保育所で、何とか4月は待機ゼロになる計算になっています。ただし、保育需要というものは常に出てくるものです。白井市も人口が微増する。伸びるという計画もありますので、また待機児童が出るかもしれません。ですから、今の委員長の提案を受け止めまして、これからスタート、どのようにやっていくのか。やっていきますので、保育所を含めて。

ただ、保育所の場合は、白井市直営というよりも、民間の保育所を誘致ということも考えていますので、そういうことであれば、いろいろな子育て支援ということで、保育は待機ゼロを目指して。保育所の新設なのか。小規模保育なのか。家庭的保育というか、いろいろな手を使って、いずれにしてもゼロを目指していかなければならないということは、当然の話です。ただし、そこに給食センターの跡地が合致するのか、しないのかということは、少し検討させていただきたいと思います。

これから、教育委員会とスケジューリングをして、スタートしていきたいと思いますので、もう少し時間をいただけたらと思います。提案としては、よく賜りました。

○米山教育長 今、委員長が言ったとおり、小さな子どもが増えることが想定されるのも、富士地区と風間街道沿いと西白井ベリーフィールドの一、二、三、四丁目。それと七次台小学校のこっち側という位です。あの辺が増えてくると、他は大体、保育士がある程度、集まれば、園自体は機能するけれども、それが今、委員長が言ったとおり、民間の施設の誘致を含めて。

確かに、あそこは車がたくさん駐車できますので、朝、布団を運んで保育園に来るときも楽です。極端なことをいうと、電車に乗って、すぐ仕事に行けるという近さもあるので。単なる提案ですけども、また教育委員会で、一緒に市長部局と話し合いをしていきたいと思います。

○伊澤市長 逆に、子育てするなら白井市というアピールにもなって、いろいろな方々が白井市に住んでみたいと思えるきっかけにもなると思いますので、待機児童ゼロは何とか維持していきたいと思っています。良い提案だと思いますので、検討させていただきます。

その他、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、委員さんから意見がございませんので、これで総合教育会議については終了したいと思います。

事務局から、何かございますか。

○事務局 この決定案をパブリックコメントに出した後、その結果について、もう一度、5月以降になると思いますが、総合教育会議へご報告させていただきたいと思えます。また日程については、改めてこちらから通知させていただきますので、その後を予定しているということです。

○伊澤市長 分かりました。パブリックコメントの結果については、また報告があるということで、了承しました。

それでは、今日は長時間にわたり、貴重な意見をありがとうございました。

午前11時28分 閉 会